ニセウンモンクチバ（新称）*Mocis ancilla* WARREN の採集記録

杉　繁　郎[1)]

Notes on *Mocis ancilla* WARREN (Noctuidae, Catocalinae)

By SHIGERO SUGI

1953年の秋から1954年の初夏まで，私は神戸市に滞在していたが，そのとき住吉の宿舎で灯火に飛来した1頭のウンモンクチバがやゝ小型であるのに気付いて直ちにこれを標本とした．標本は新鮮な♂であったので，後に私はその交尾器を調べてみたが，それが関東で普通に採れる *Mocis annetta* (BUTLER) ウンモンクチバと全く異る形態をしているのに驚かされた．そしてこれが我国からはっきりした記録のない *Mocis ancilla* (WARREN) にまちがいないと確信するので，同好の方々の御注意をお願いしたいと思う．

Mocis ancilla (WARREN, 1913)　ニセウンモンクチバ（新称）

Cauninda ancilla WARREN, in SEITZ, Macrolep. 3: 334, t. 61g (1913); DRAESEKE, Deuts. Ent. Zeit. Iris, 42: 313 (1926); BRYK, Arkiv f. Zool., 41 A(1): 123 (1948)

Mocis ancilla DRAUDT, Mitteil. Münch. Ent. Ges., 40: 153 (1950)

本種は上に掲出したように WARREN によって *annetta* から分離されたもので，それより古く *annetta* として記録されたものの中にはおそらく本種を含んでいるものと思われる．WARREN は本種を記載するとき，その分布については"*annetta* と同じ地域に産する"ときわめてあいまいに記しており，一方*annetta* の分布には"アムール，中国，朝鮮，日本〔本州〕，北海道，九州"をあげている．従って *ancilla* の模式産地がどこであるのかは，模式標本を調べてみないと判らないが，原記載に"〔朝鮮の〕元山など多くの土地で本種は *annetta* よりも多い"と記されているので，この辺りの標本が模式標本となっているのかもしれない．この WARREN の不明確な産地の記載が，今日まで本種の日本における産否をあいまいにしたということができよう．

私の経験では関東では *ancilla* に当る標本は得られたことがなく，たぶんこの地方から北方には本種は産しないもので，今後はおそらく近畿から九州にかけて新産地が見付かりそうに思う．BRYK (l.c.) は北朝鮮の朱乙から本種の1♂1♀を記録し，その♀が本種のものか *annetta* のものか判定が困難であると書いている．

私の標本は1♂だけなので，♂の実物に基ずいて *annetta* との区別点を書きとめておく．

♂．開張約 32mm．春生の *annetta* より確かにわずか小さい[2)]．前翅の斑紋と色調は *annetta* とほとんど同じである．私の標本では前翅はかなり濃色で，紫褐色が強い．安全な区別点としては外横線の形状を用いることができる：すなわち，*annetta* では，これが第2脈のところで外方へ突出し，更に強く内方に彎入するが，*ancilla* では第2脈で僅かに外方へ突出し，その後はゆるい弧を描いて内縁に達する．WARREN は本種の後翅の黄色味が特に外縁部で *annetta* よりも強いと書いているが，私の標本に当てはまらないばかりでなく，むしろ *annetta* の春生の♂にそのような傾向がみられる．WARREN の *ancilla* には春生の *annetta* を誤って含んでいるのかもしれない．ほかには明瞭な区別点を見出し得なかった．

♂交尾器．♂交尾器が *annetta* ときわめて異ることは WARREN も書いている．もっとも彼は"JORDAN によれば"そうだとしていて記載はしていない．区別点は図で充分だが，簡単に記載しておく[3)]．

Uncus は長く強壮．Valva は比較的短く，先端は滑かに円く，背縁部は骨化しない（*annetta* では背縁が強く骨化して発達し，valva の先端を超えて腕状に突出する）．Valva 内面の突起のうち，もっとも腹側にあるのは

---

1)　東京都大田区入新井 4—112

2)　*Annetta* は年2回発生するものと思われ，夏生の方が春生よりも平均してやゝ大きいようである．

3)　*Mocis* HÜBNER の模式種である *M. undata* (FABRICIUS) オオウンモンクチバの♂交尾器は，ごく最近 BERIO (Boll. Soc. Ent. Italiana, 84: 105—107, 1954) によって示された．

sacculus が延長されたもので harpe ではなく，その内方の小さな突起が harpe であろう[4]．もっとも尾方にある腕状の突起は ampulla と考えられる．Juxta は小さく，基部で二分されているが，尾方に延びる．Aedoeagus は基部太く先端に向って細まり，末端は鋭く尖った突起におわる．

所検標本． 1♂，神戸市住吉，9. v. 1954（杉），杉所蔵

比較用には，東京，高尾山，熊ノ平，群馬県川原湯，福岡県吉井町等の *annetta* 17 ♂♂ ♀♀（杉所蔵）を用いた．

本種は *annetta* とまぎれて多くの標本中に混在しているものと思われ，特に近畿以西の方はぜひ今後気を付けて頂きたい．多産地もきっと見つかるであろう．

追記．本稿を書いてから私は大阪府立大学農業昆蟲学研究室の標本を調べてみたが，所蔵される標本のほとんどは疑なく *annetta* であった．しかし次の 1 頭だけは正しく春生の *ancilla* だと考えられるので書きとめておきたい：♂, Sakai, Osaka, 7. iv. 1952 (T. Kodama)．一色周知教授はじめ同教室の方々に厚くお礼申上げる．

Summary Here is written a note on *Mocis ancilla* (Warren), whose occurence in Japan has not been confirmed. I could fortunately obtain a unique male (Kobe, 9 May 1954, Sugi leg.) that has strikingly dissimilar genitalia to those of *annetta* and it was naturally identified with *ancilla* through the published description. It is a little smaller than the same brood of *annetta*, deeper purplish brown, the postmedian line more even and not sharply angled at vein 2, but the hindwing is rather less yellowish compared with the spring brood of *annatta*, which has markedly yellow terminal area. The male genitalia of the both species are shown. *Ancilla* may be found mainly in the western part of Japan, and seems to disappear in Tokyo and its neighboring area.
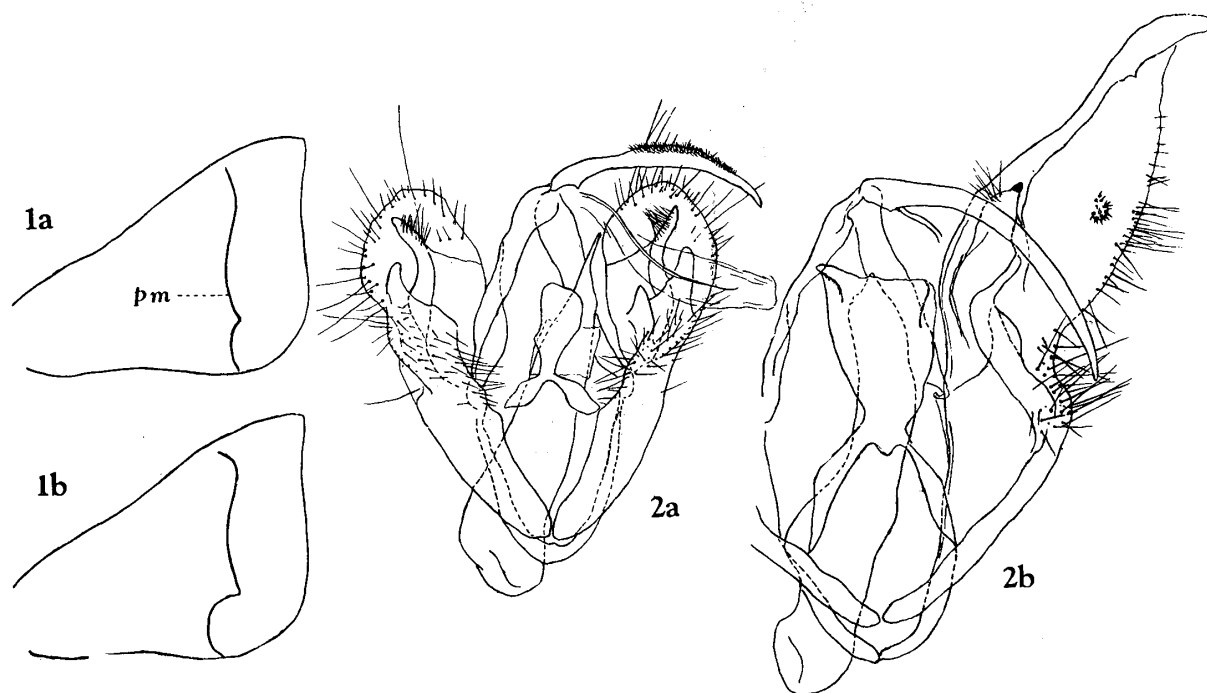
Fig. 1. Forewing. a-*ancilla*, b-*annetta*, pm-postmedian line.
Fig. 2. Male genitalia. a-*ancilla*, b-*annetta*.

4) 左側の valva にはこの突起を欠く．Catocalinae には左右非対称の交尾器構造をもつものが多いので，これは正常なものと思う．